

学校運営協議会&地域学校協働活動だより

(第2回合同会の内容報告と各学校での協働活動の一部紹介)

南関町教育委員会教育課

第2回南関町学校運営協議会全大会と第2回地域学校協働活動運営委員会(学校応援団)との合同会議を、12月22日(木)に「南の関うから館」で開催しました。この第2回合同会では、熊本県統括アドバイザーの山平敏夫氏の講演及び学校ごとの協議とその報告会がありましたので、その内容をお知らせします。また、本年度もたくさんの学校へのご支援をいただきましたのでその活動報告もさせていただきます。



会長(谷口教育長)あいさつ

今日は、県統括アドバイザーの山平先生、玉名教育事務所社会教育主事の岩田先生をお迎えしての合同会議となりました。お二人の先生には、大変お世話になります。

さて、本年度の第1回合同会を6月20日に開催し、第2回合同会が年末の本日になってしまいました。6月の第1回合同会を踏まえて、「学力向上部」「心づくり部」「体づくり部」「環境充実部」の4部会のアクションプランに基づいた具体的実践状況の成果や課題についての協議が中心になりますが、前回から六ヶ月が経過し、小学校の伝統行事「かかしコンクール」や中学校の「町の文化や歴史を学ぶフィールドワーク」等は終わっており、是非、来年度に向けた成果や課題等の総括もお願いしたいと考えています。

コロナについても、第8波ということで感染が拡大していますが、これまで以上に学校行事を始め、地域学校協働活では、充実した取組みができており、通常の学校生活にもどりつつあることを実感しています。

こういう取組みの結果として、「めざす南関町の子ども像」に掲げている4つの子どもの育成につながっていくものと考えていますので、これまでの取組みの改善を図り、お集りの関係者が一体となった更なる取組みの充実をお願いします。」

山平 県統括アドバイザーの講話

1 地域と学校の連携・協働の状況について

- (1) 地域学校協働活動推進員は、全市町村に配置された。
- (2) 地域学校協働本部や地域学校協働活動推進員等による、各学校のカバー率が令和4年度で100%になった。

2 子供の主体性を育む連携・協働の事例紹介

事例1 学校運営協議会と子供の連携・協働

(1) 学校運営協議会へ児童の提案

- ・ 地域の方と一緒に地域に花を植えたい。
- ・ 地域の行事にもっと参加したい。

(2) 学校運営協議会と生徒の協議

- ・ 地域の歴史・文化・産業を学びたい。
- ・ 小学生に学んだことを伝えたい

事例2 各種団体と子供の連携・協働

祭りへの参加

史跡ガイド

高齢者との交流

地域との防災学習



事例3 ストーリー性のある地域学校協働活動

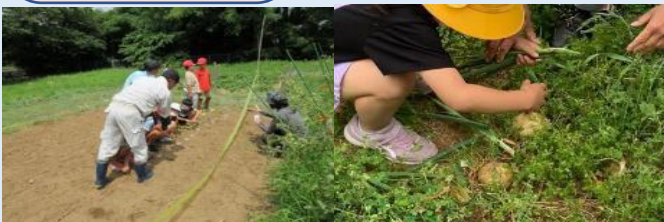
活動1：植え付け
地域の方に習い、
野菜を種から植える。

活動2：草取り
グループで草取りをする。

活動3：収穫
喜びを分かち合う。

?

活動4：貢献
育てた野菜を子供食堂



活動5：販売
収穫した野菜を販売

3 持続可能な連携・地域との防災学習協働のために

① 目標を持ち続ける。

- ・ ワクワクする目標か。成果が想像できる目標になっているか。
- ・ 目指すゴールはどこか、実現したいことは何か、擦り合わせは絶えずできているか。

② アクションを起こし続ける。

- ・ 全員でアクションを起こしているか。
- ・ 仮決めでよい。やってみる。これでいけるかな。ちょっと違うかな。修正してみようか。この繰り返しができているか。

③ 振り返りを続ける。

- ・ 振り返る機会を設けているか。
- ・ 気兼ねなく意見等を言える関係ができているか。

◎教育委員会のリーダーシップが土台

Action Plan A の具体的実践事項

<学力向上部>

- タブレットの活用について校内研修を実施した。全学年の児童を対象にタブレットを使った授業を展開している。上級生は、タブレットを持ち帰って取り扱いもできている。
- 3年生以上の児童はeライブラリーを活用し、基礎学習の向上に活用している。
- 授業中に調べものやプログラミングの授業で利用しているが、弊害として youtube を覗いていたとの指摘があるが、なかなか注意喚起を徹底するのは難しいと思われる。

<心づくり部>

- 警察の協力を得て5・6年生を対象に SNS の使い方についての講演会を行い、トラブル回避にも役立った。

<体づくり部>

- 学校保健委員会から朝食の大切さについての動画配信を行ったが、400回の再生があった。アンケートの結果については保健だよりにてお知らせしている。184名の回答があり、88%がとても参考になったとの回答があり、反響が大きかった。

<環境充実部>

- 今年度は業者にてグラウンド整備を行ってもらったため、大変助かった。ただ5年に1回のペースで回ってくるため、今後も継続していく必要がある。
- 美化作業はボランティアなので、参加数も減少している。地域の方への呼びかけが重要となってくる。地域を取り込むためにもボランティアセンター（社協）との連携も大切にし、協力体制を整えていく。
- 東門のくすの木の整備、落ち葉等の処分が課題。今後、地域への呼びかけも必要である。
- 教育委員会といつ植えられたか分からない樹木だが、処分も要検討である。

Action Plan B の具体的実践事項

<学力向上部>

- 米作りをもっと身近なものとして学習に取り入れるために、地域と学校が集まる機会をつくる必要がある。

<心づくり部>

<体づくり部>

- 不登校のためのオンライン授業等についての協力体制を整える。現状把握も難しく、課題がまだ表面化していない状況である。

<環境充実部>

Action Plan A の具体的実践事項

<学力向上部>

- 家族がコロナ感染し、子どもは元気だが自宅待機しなければいけない場合のリモート授業は充実した時間を過ごせて、とてもありがたかった。
- タブレットの持ち帰りは持続する。
- ドリル、様々な無償アプリを利用している家庭も一部あるが、もっと多くの家庭に有効活用法を広める。
- 様々なアプリの活用法を子どもは知っているが、保護者は把握していないため、保護者の学ぶ機会をつくる。
- 町や教育委員会から講師の紹介や学ぶことのできる情報提供をしてもらおうと助かる。
- 学級懇談会の前に teams や基本的操作を学ぶ機会を図る。
- 現在フィルタリングがかかっている状況なので、保護者の知識や家庭でのルールが必要である。
- タブレットだけでなく、中学校に向けて子どもの自立心を大切に育みながら、スマホの使い方も学ぶ必要がある。
- 生徒指導部会では長時間の利用抑止につなげるため、タブレットの利用状況を学校で把握できるということを伝えていく。

<心づくり部>

- 「ホタル音頭」を子ども達へ継承する取り組みを今後も続けていく。
- 指導者が95歳と高齢のため、後継者の育成にも力を入れていく。
- 4年生ではホタルの環境について学ぶ機会がある。今後もエコア熊本などの地域資源を活用し、学習の機会を持続する。
- 6年生では社協さんの協力により、民生委員さん、ささき診療所さんの利用者さんたちとの花植え交流会を開催している。
- 様々な体験活動を通して子ども達の感想を新聞掲載してもらうことによって、地域の方の学校や子ども達への関心も高まり、保護者からの協力もいただきやすくなる相乗効果となっている。今後も持続してほしい。

<体づくり部>

- 体力向上優秀校として、体操でオリンピックの秋山エリカさんに来校いただき、児童へご指導をいただく機会があった。「ホンモノの人との生の出会い」によって、子ども達が自分の可能性、夢への選択肢の広がりにもつながる素晴らしい機会となった。単発ではなく、今後も持続してほしい。
- 稲作体験を行う5年生の家庭科の授業で、ご飯を炊いたり、みそ汁を作る機会がある。子ども達が自炊できる生きる力を育てたい。授業の一環で味噌玉作りのような簡単な料理教室を開催できたら良いのではないかな。

<環境充実部>

- 草刈り作業はP数の減少に伴い、地域ボランティアさんのご協力を得ることが大切となってくる。日頃からの関係性、つながりが重要である。PTAも頑張るが、地域の方のおかげ様で実施することができましたという感謝の気持ちを忘れずに今後も取り組んでいく。
- ボランティアさんのリストアップ、受け入れ体制を整える必要がある。PTA会長や校長先生が交代しても続けられるように町と協力しながらマニュアル化を図る。

Action Plan A の具体的実践事項

<学力向上部>

- 「タブレットを用いた宿題を増やす」ということに関しては、長期休暇中は持ち帰りをさせて時々健康観察を行ったり、課題を与えて問題を解かせたりした。普段の宿題でタブレットを使っている学習は少ないが、eライブラリーで復習することは各自で行っている。持ち帰り時の使い方には気を付けるよう促す必要がある。
- 保護者向けのタブレット講習会は新型コロナ感染拡大防止のため未実施であるので、次年度実施を目指す。タブレットを導入した理由を把握していない保護者もいるため、メリット等も伝える。
- 4年生からはプレゼンテーションができるようになっている。操作方法も向上している。
- 学力も少しずつ向上している。

<心づくり部>

- 不登校の子どもに対しては、専門機関も連携し、リモートで学習する手立てをとっている。また、本年度、不登校気味だった児童を少しでも学校に向かうように段階を追って取り組み、今ではほとんど欠席することもなく、
- 夏休み中にもノーメディアデーを設定して取り組んでもらったのは良かった。
- タブレットやスマホ等の所持率が高くなっていて、夜遅くまでゲームをして寝不足になり、学習に対する意欲低下、体調不良に陥る児童がいるため、2月にすこやか集会を開き、SNSの使い方、睡眠の大切さ等を伝える機会をつくる。

<体づくり部>

- 毎日行っている健康チェックに、朝食の欄があり、ほとんどの子どもが食べているが、量や質には個人差がある。
- 毎週月曜日は「パワーアップチェックの日」ということで、朝食をはじめ、ハンカチ・ティッシュを持ってきているか、爪を切っているか、何時に寝ているかなどの項目があり、健康衛生状態を把握し、子どもと対話するようにしている。定期的に家庭に持ち帰ってもらい、家庭でも声かけをしてもらうようにしている。
- 持久走大会に向けて業間に全校体育の時間を設定し練習を行ったが、自主的に朝や昼休みに練習を行う児童が多かった。

<環境充実部>

- OBの方々が親子美化作業時に一緒に参加されて作業をしていただいた。
- 当日に来られない方は前日に積極的に草刈りの作業を行ってくださった。
- 運動会前に運動場の整備をしていただいた。

Action Plan B の具体的実践事項

<学力向上部>

<心づくり部>

<体づくり部>

<環境充実部>

「B ～安全安心な登下校～ 気持ちの良いあいさつを目指す」

- 低学年のうちは恥ずかしさもあるのかもしれないので、高学年がお手本になってもらうよう働きかける。
- まずは家庭から声かけを行う。
- 子どもにあいさつの意識づけを行うためにも大人からの声かけやあいさつを心がける。
- あいさつゾーンのような道を作る。
- 放課後子供教室等の協力を得て、子ども達に文字や絵を書いてもらったり、手作りの旗を作る。
- 下坂下方面の見守りが手薄である。立っているだけでもスピードを落とすので、旗を持つての見守り体制を整える。

第2回合同会 記 録

南関町立南関中学校

Action Plan A の具体的実践事項

<学力向上部>

- タブレットを使用しての学習は増え、意見、集約等方法は多岐にわたり成果がみられる。
- 長期欠席者もオンラインでの授業に参加できる。
- タイピングの差はあるが、操作の差はあまりない。
- 課題として、タブレットがうまく作動しない、修理が追いついていない。先生や欠席者のもので何とかカバーできているが、予備もないので厳しい状況である。
- メディアリテラシーやタブレット等の研修について、学校側としてはPTA主催で動いてほしい。
- 課題として、親子講演会の保護者の参加集が少ない。どうすれば保護者が参加するか。
- 小学校の救命救急のように何回か開催し、出席の義務化をすればどうか。
- 実話で誰にも危険性がある！という内容ならどうか。

<心づくり部>

<体づくり部>

- 食の大切さを学習してもらうため、給食センターの方からお話をしていただいた。
- リクエスト給食なども食に関心を得る機会となっている。
- 支援学級では様々な野菜作りを体験し、販売も行った。

<環境充実部>

- まだ実行していないが、今後は除草作業やノーメディアデー協力の呼び掛けを防災無線を用いて地域の方々にも行う予定。
- 除草に用いる草刈り機の協力台数を増やすために、草刈り機持参の方には、お礼に刈刃を渡す。そのために資源回収をしっかりと頑張り、その収益の一部を刈刃購入にあてる。
- 資源回収が夏休み後の除草作業後に実施されるため、今年度は収益がなく、お礼を渡す方法は実施できていない。次年度はできるのではないか。

6月の第1回合同会につづき参加させていただき、前回も感じたことだが南関町各小中学校の全部の委員さんや地域の方が集まって協議されている様子からは、チーム南関の力を感じる。

各学校では第1回の合同会で協議されたアクションプランをもとに様々な実践をされたことと思う。ただ、新型コロナウイルス感染症がなかなか終息しないため、感染防止対策をとりながらの地域学校協働活動の実践には、工夫が求められるため苦労が多かったと思う。そのような中、子どもが主体となった「かかしコンクール」や地域の宝を知る「フィールドワーク」などの協働的な取り組みが実践されたことは大変素晴らしい。また、アクションプランを基にした活動や取り組みについて協議されていたが、たくさんの方が集まっているので、目的がしっかりしていれば、地域の方の力をかりることができる。また、企業とのタイアップや、タブレット・ICTを用いればもっとたくさんつながりができる。二小の体力づくりから夢づくりへのつながりは素晴らしい。是非、歩みと止めないで子どもたちのためにこういった活動を続けてほしい。

「めざす南関町の子ども像」の1つめの「南関町を誇りに思い、ふるさとを愛する子ども」の実現のためには、この学校運営協議会で熟議されたことを実践する必要がある。そのためには、計画と実働するため地域学校協働活動なくしてはありえないことだと思う。

地域の宝を地域の方々とともに学んだ経験・地域の方への感謝の思い・地域のために子どもたちが取組んだことの有用化の積み重ねが、ふる里を大切に子どもに育っていくのではないかと思う。

今後も地域全体のつながりを大切にしながら地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりのための活動を推進していただきたい。

町づくりは
人づくりから

「めざす南関町の子ども像」

- 1 町を誇りに思い ふるさとを愛する子ども
- 2 明るくたくましく 元気にあいさつできる子ども
- 3 思いやりの心もち 自分の考えを伝えられる子ども
- 4 夢に向かって 自ら学び挑戦する子ども

*特に、学校では『自分の考えを表現する力』を鍛え、『難関突破力』を育みます。